

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成30年度)

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 171-0022

所在地 東京都豊島区南池袋2-49-7池袋パークビル1F

評価機関名 パブリックサービスR&C合同会社

認証評価機関番号

機構 09 - 190

電話番号 03-4570-8659

代表者氏名 代表社員 臼井 淳

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	吉田 紅愛	経営	H0301076
	②	狩野 節子	福祉	H1101048
	③	青木 みな子	福祉	H1401019
	④	臼井 淳	経営	H0405013
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	小規模保育事業			
評価対象事業所名称	保育ルームひよっこわかまつ			
事業所連絡先	〒	183-0005		
	所在地	東京都府中市若松町4-10-11		
	Tel	042-319-0474		
事業所代表者氏名	園長 戸澤 益美			
契約日	2018 年 7 月 18 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2018 年 8 月 7 日			
利用者調査結果報告日	2018 年 10 月 4 日			
自己評価の調査票配付日	2018 年 8 月 7 日			
自己評価結果報告日	2018 年 10 月 4 日			
訪問調査日	2018 年 10 月 10 日			
評価合議日	2018 年 11 月 28 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価の実施にあたり、当機関における評価の進め方やスケジュールについて園と事前打ち合わせを行い、職員に対する自己評価方法の説明会を開催しました。利用者調査は、入園している全ての子どもの保護者を対象としたアンケート調査を実施しました。事業評価は、経営層及び職員個別の自己評価結果並びに利用者調査結果を分析した上で、評価者間で調査時の着眼点を共有し、訪問調査に臨みました。訪問調査では、園長や関係職員に対するヒアリングと書類の確認を行いました。訪問調査後、評価者間合議により評価結果をまとめました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2018 年 12 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 子どもの最善の利益（子どもらしく生きることのできる場の提供、自分を最大限発揮できる場の提供） 2) 保護者の就労支援 3) 基本的な生活習慣の自立で自信をつける 4) 子ども自身が意思決定できる</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの様子に敏感で感受性豊かに思いをくみ取ることができ、代弁できる人。 子どもを否定的に見ることなく、個性を面白いと思える人。 子ども達を、大人から見たいい子や扱いやすい子にすることなく、個性あふれる子どもで過ごせる環境作りに尽力できる人。 保護者の子育ての帆走者として温かい思いで応援し続ける事のできる人。</p> <p>(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>保護者と共に子どもを常に温かく包み込み見守り、個性を守り、未来に羽ばたかせるという覚悟を持つ。</p>

調査対象

平成30年8月現在、保育ルームひよっこわかまつに在籍している子ども10名の保護者全世帯(10世帯)を対象として実施しました。

調査方法

アンケート方式により実施しました。事前に調査の概略を記したお知らせを保育園内に掲示し、園の職員からアンケート調査票と返信用封筒を保護者に配布してもらいました。記入した調査票は、無記名・封かんの上、直接評価機関宛に郵送してもらい、回収する方法をとりました。

利用者総数	10
利用者家族総数(世帯)	10
共通評価項目による調査対象者数	10
共通評価項目による調査の有効回答者数	9
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	90.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は、「大変満足」が77.8%(7名)、「満足」が11.1%(1名)と、回答した保護者の88.9%が満足という高い評価が得られています。なお、その他は、無回答が11.1%(1名)でした。設問別でも、全17問中、「はい」との肯定的な回答割合80%超が14問、100%が8問となっています。総合的な意見でも、「子どもが年下の子を可愛がっているようで、家でもお話をしてくれます。ひよっこわかまつで乳児の時期を過ごすことができ、本当に良かった」、「少人数での保育なので、一人ひとりに目が行き届いており、子どもの変化などに充分に対応してもらっています」、「子どもが健やかに過ごせるよう、大変努力してくださっているのを感じ、安心して預けています」、「心身や知能の発達にも力を入れていて、とてもありがたいです」等の好意的なコメントが多く寄せられています。また、園庭の水はけや、職員の異動・退職時の連絡への意見・要望もみられました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	9	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「お散歩でも達成感を感じさせたり、いろいろと工夫してくれています」、「発達に沿って、自由に遊ばせてもらえる」、「広い芝の園庭や遊具があったら嬉しい」とのコメントが寄せられていました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	9	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	8	1	0	0
回答割合は、「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっています。 自由記述には、「栄養士さんに食べ物の進め方や形態について相談できる場がある」「食が進まない時は、様子を見て子どもに合わせさせてくれます」「夕方頃お腹がすいている時がある」とのコメントが寄せられていました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	9	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「毎日天気の良い日は外遊びをしている」とのコメントが寄せられていました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	5	3	0	1
回答割合は、「はい」が55.6%、「どちらともいえない」が33.3%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	8	0	1	0
回答割合は、「はい」が88.9%、「いいえ」が11.1%となっています。 自由記述には、「玄関や入口の門の施錠がない」とのコメントが寄せられていました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	8	1	0	0
回答割合は、「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	8	1	0	0
回答割合は、「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっています。 自由記述には、「先生方はとてもやさしく話しやすいです」「もう少し本音で悩みや相談ができる関係を作りたい」とのコメントが寄せられていました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	8	1	0	0
回答割合は、「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっています。 自由記述には、「とても整理されています」「いつも床まで拭いてくれている」とのコメントが寄せられていました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	9	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	0	0	1
回答割合は、「はい」が88.9%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	9	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「子どものペースをよく分かってくれる。見守ってくれる」とのコメントが寄せられていました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	7	0	0	2
回答割合は、「はい」が77.8%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	9	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	7	0	0	2
回答割合は、「はい」が77.8%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	9	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	子ども自身の意思決定の尊重や保護者の就労支援を方針・目標としています 園の方針・目標として、①子どもの最善の利益(子どもらしく生きることのできる場の提供、自分を最大限発揮できる場の提供)、②保護者の就労支援、③基本的な生活習慣の自立で自信をつける、④子ども自身が意思決定できる、の4項目を掲げています。園長は、入職時や職員との面談時、入園説明会等を通して、これらの考え方を説明し、園の姿勢が職員や保護者に理解されるよう取り組んでいます。保育に関する外部研修受講後の振り返りや、職員とのミーティングの際などには、これらの理念との関連を説明するなどして、理解が深まるようにしています。 園長は子ども一人ひとりに応じた支援や保護者との信頼関係作りに努めています 園の直接的な運営は園長とリーダーが担い、法人としての意思決定には同一法人内の認可園園長が加わる形で、経営層を構成しています。キャリアアップ補助制度を活用し、正職員全員がリーダー職にあり、保育リーダー、乳児リーダーを定めています。園長は、年度計画の作成や職員への伝達・指導など、組織運営を牽引しています。実際の保育にも入ることで子ども一人ひとりの様子を把握するとともに、保護者との面談や日々の関わりの中で、それぞれの家庭の考えや状況についても把握に努め、信頼関係作りや個々に応じた支援に尽力しています。 重要な案件は必要に応じて同一法人内の園長と連携し、職員間で話し合い決定しています 園の運営や業務に関する重要案件は、必要に応じて同一法人内の認可園の園長や看護師等と相談しながら、園内で原則として月1回開催する職員会議や、日々の昼会議の場で検討・決定しています。会議での決定事項はノートに記録し、欠席者も含めて閲覧したらチェックする欄を設け、情報共有に努めています。多職種の連携や情報共有については、小規模園の特性も生かしてさらに取り組むことが期待されます。保護者には月1回発行の園便りで決定事項を伝えています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー2の講評

行事アンケート結果の集約や園長連絡会への参加等、ニーズの把握に努めています

行事の前後には、日程や内容の希望、感想などを保護者に聞くアンケートを取り、結果を集約して、行事の企画運営に反映させるとともに、園だよりで保護者に伝えていきます。職員の意向に関しては、年1回の園長面談や昼会議での投げかけ等を通じて把握・検討しています。地域のニーズや事業の動向は、市の保育園の園長連絡会への参加や保育情報誌の定期購読等を通じて把握しています。今後は第三者評価の保護者アンケートや職員自己評価結果も活用し、課題を見出し、中・長期計画や事業計画に反映させる取り組みも期待されます。

職員の意向や地域の福祉ニーズ等について把握し、ニーズの充足に取り組んでいます

職員からの問題提起や提案を受け、勤務時間や散歩時の人員配置などについて、昼会議で話し合い、改善につなげています。地域との連携を模索しており、民生児童委員を行事に誘ったり、子ども食堂のニーズがあることから、週末に保育室を貸し出し、人手を出すことなども検討していますが、相手の事情によりまだ実現には至っていません。近隣には高齢者の世帯が多く、見守りや支援を兼ねて、時々散歩コースに取り入れて積極的に挨拶するなど、高齢者が子どもや職員と交流できるように取り組んでいます。

年度末に年度の振り返りと翌年度の方向性を取りまとめ、全職員に周知しています

年度末に非常勤職員を含めた全職員が集まる夜間職員会議を開催し、園長から、年度の反省と翌年度の方向性をとりまとめた資料を配布し、職員に伝えていきます。保育目標については具体例も加えながら丁寧に説明しています。今後は、計画において具体的な目標を設定して達成状況を把握しやすくしたり、計画と報告を連動させ、年度途中にも振り返るなど、PDCAサイクルを意識した計画の推進が望まれます。それにより、園として目指す姿がより明確になり、職員が各自の役割について一層認識を深めることも期待できます。

カテゴリー3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

1/2

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(○●)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(○○)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(○○)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○●)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(○○●)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

職員が守るべき法・規範・倫理等は就業規則やマニュアル等に明記し、周知しています

職員が守るべき法・規範・倫理に関しては、就業規則にサービスの基本を明示しています。入職時には雇用契約書と誓約書を取り交わし、就業規則と個人情報保護義務の遵守について誓約してもらった方法を探っています。苦情解決制度は入園説明会で伝え、要望や苦情があれば園長を中心に対応しています。職員には「子どもの人権擁護マニュアル」により基本的な禁止事項等を周知していますが、今後は児童福祉法や児童憲章といった背景にある法体系等についても知らせていくことで、さらなる意識の向上が期待されます。

会議での共有・検討などを通じて、虐待防止や職員の不適切な言動の防止に努めています

虐待の防止の前提となる虐待の定義については、資料を配布し職員に伝えていきます。法人の「虐待防止マニュアル」に園独自の内容を加え、職員に周知しています。職員が不適切な言動を行わないよう、園長が気づいた点や職員同士での気づきを昼会議等で共有・検討し、職員の理解を促しています。また、行政からの虐待事例の通知等も共有しています。今後はヒヤリハット報告の仕組みを活用するなど、より職員の認識を高める取り組みも期待されます。家庭等での虐待等の情報や疑いがあれば、必要に応じて関係機関と連携して対応する体制を取っています。

地域に開かれた園として、具体的な地域貢献事業の実施を目指しています

透明性を高める取り組みは、現状では園内での財務情報の開示にとどまっていますが、ウェブサイトの充実などを検討しています。市内で唯一の小規模保育事業実施園であるという認識の下、市の私立園園長会では必要に応じて情報発信を行っています。保護者の口コミ等を通じて育児相談があれば積極的に受け、対応しています。現在も行っている次世代育成事業や妊婦さん向け保育所体験に多くの参加が得られるよう広報活動を強化していくなど、地域貢献事業の充実について検討しており、地域に開かれた園としての具体的な活動の実現が期待されます。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 1/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(○●●●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
○あり ●なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(○○●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>災害等に備えたマニュアル類を策定しており、今後のさらなるリスク管理が期待されます</p> <p>園として重要と考えるリスクへの対応として、事故対応のフローチャートや各種マニュアルを策定しています。乳幼児突然死症候群の防止のためにチェック表を用いて確認を行い、食物アレルギーについては保育の環境設定も含めてリスクを踏まえた対応を検討し、より適切な対応ができるよう随時見直ししながら取り組んでいます。今後はさらに、園内外の発生事例なども広く検討した上でリスクを幅広く洗い出し、優先順位を設定するとともに、重要なリスクについての対応策をさらに具体化し、園内での訓練の充実につなげていくことが期待されます。</p> <p>毎月の訓練や法人内での連携、事故の要因分析等により、職員の意識を高めています</p> <p>月1回、災害・不審者・火災の対応訓練を実施しています。保護者にも協力を依頼し、災害伝言ダイヤルを使用した引き取り訓練を年1回、実施しています。同一法人内の認可保育園が第二避難場所となっているため、同園を避難場所とした避難訓練も実施するなど、日頃からの連携に努めています。事故発生時は事故報告書を作成し、原因や改善策、対応・実践の評価等を記載する仕組みがあります。ヒヤリハットの用紙もありますが、さまざまな事例を収集し事故防止につなげられるよう、記載する内容について再検討し職員に周知するなどの工夫が期待されます。</p> <p>一定の情報管理やアクセス制限等を行っていますが、さらなる情報保護が望まれます</p> <p>情報は種類別にファイリングし、ラベルを付けて管理しています。パソコンはパスワードをかけ、園長と栄養士のみが使用できるようにし、アクセスを制限しています。個人情報を含む情報は外部への持ち出しを禁じています。今後はファイリングの体系化や検索しやすい工夫、情報の機密性に応じた施錠管理など、情報管理のさらなる取り組みが望まれます。また、個人情報保護規程は園に設置されていないため、今後は具体的な利用目的の明示や開示請求への対応方法を法人または園として定め、運用することが望まれます。</p>		

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

7/12

評価項目1

事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(○○)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(●●●)

評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点(○●●●●)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4

職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点(○○○○)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

2/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(○○●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
○あり ●なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

同一法人内の保育園との人事交流を踏まえた職員の育成を行っています

人材は多様な媒体を通じて募集し、書類選考や園長との面接により選考し、採用を決めています。応募者の見学時には、より関心を持ってもらえるよう、小規模園ならではの特性や子どもとの密な関わりなどの実感を伝えています。クラス配置は、正職員と非常勤職員の組み合わせや各自の経験・能力、希望を踏まえて決めています。法人内の家庭的保育事業実施園との人事交流ができるよう、子育て支援員の資格を全職員が取得しています。勤続年数や職種ごとに求める力量などのキャリア要件は一覧に整理され、キャリアへの道筋は面談で個々に説明しています。

自己評価や園長面談を経て、各職員の研修目標を定め、能力向上を支援しています

職員の育成に関しては、年1回の園長面談の後、各自の自己評価表をもとに法人の認可園園長による面談を実施し、年度の反省と次期の目標を明記しています。非常勤職員も含めて全職員が「研修等目標」の書式に年度の研修受講希望を明記し、研修後の振り返りを記載する書式がありますが、今年度は運用されておらず、活用が期待されます。研修受講は勤務時間として扱い、非常勤職員にも参加しやすい仕組みとしています。研修受講後には報告書を作成し、昼会議でレジュメを基に発表する時間を設け、学びを園全体で共有しています。

職員の状況に応じた勤務形態の柔軟な変更など、長く働ける職場づくりに努めています

職員の良い取り組みがあれば園長が昼会議等で紹介・称賛し、モチベーションの向上に努めています。ストレスチェックを実施して職員の状況把握に努め、子育てや介護等の事情があれば正職員から非常勤職員に変更するなど、勤務形態を柔軟に見直し、働きやすい職場となるようにしています。休憩時間に好みの飲み物を選んでお茶の会を共有し、リラックスした中でコミュニケーションを深めたり、勤務後の食事会を開催するなど、職場での良好な人間関係の構築に努めています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

平成28年度に小規模保育事業としての認可を受けたことを機に、職員全員が法人の基本理念・方針を理解し、保育の方向性を揃えていく必要性を再認識し、重点的に取り組んできました。子どもへの言葉かけ、対応、保育内容の設定を自分本位ではなく、法人の理念・方針に沿ったものとするために、園長と職員が同じ乳児保育に関する研修を受講し価値観を共有するなどの取り組みも行い、また日々の昼会議等で、大人のかかわりが子どもに与える影響や、一つ一つのかかわりの意味などを園長から伝え、意識の統一を図ってきました。現状では、一定の成果が見られますが、浸透不足、理解不足や職員の入れ替わりなどがあることから、今後も継続的に取り組む方針です。

目標の設定と
取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

年度末の非常勤職員を含む全職員での夜間職員会議の場で保育目標を分かりやすく伝え、また園長が保育に入り、実践しながら、日々の昼会議等で子どもへの適切な言葉かけ、「待つ保育」の実践方法や意味などを伝えていく取り組みを積み重ね、職員の理解が深まってきたようです。園として目指す保育の実現のために、日々、努力している様子がうかがえます。目標の具体的な到達点や指標の定めはないことから、現時点での達成度を示すことはできませんが、取り組みの一定の成果は見られます。今後は到達点や指標をより明確に示していく工夫も期待されます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

保育の質の向上のため、職員が担当するクラスの年齢に応じた子どもの心身の発達への理解をより深め、特に経験の浅い職員を育成していくことを重点課題としました。職員との面談を経て、研修目標を設定し、年齢別の成長発達や自発性を伸ばすための保育内容をテーマにした研修に積極的に参加しました。また、過去の保育記録の閲覧を奨励し、数か月から1年前の子どもの姿を振り返り、発達に沿った保育を意識できるように取り組みました。後で生かせる記録の書き方についても職員を指導し、良い例、悪い例を提示しながら子どもの成長発達のプロセスを書くよう奨励してきました。職員が子どもの目標設定をより適切にできるようになり、保育の見通しを持てるようになるなどの成果が見られます。朝夕の送迎時の保護者対応についても、子どもの成長発達の様子をからめて話をする姿が以前よりも見られるようになりました。今後も継続的に取り組む方針としています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園の目指す「子どもが子どもらしく、最大限に自分を発揮できる場を提供する」との保育理念の実現に向けて、日々の保育計画や振り返りの記録を題材に、発達を見通した保育の実践ができるよう、園長からの指導や現場での話し合いを通じて、日々の気づきを積み上げてきています。目標の具体的な到達点や指標の定めはないことから、現時点での達成度を示すことはできませんが、記載される保育目標や記録内容の変化から、育成の一定の成果が見られます。今後はテーマを分類して細分化するなど、到達点や指標をより明確に示していく工夫も期待されます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>利用希望者が園の情報を入手しやすい方法を考え提供しています</p> <p>園の情報は、「小規模保育施設 ひよっこ わかまつ」のリーフレットに、施設概要や保育目標、定員、保育時間、健康管理、保護者の参加行事、一日のスケジュールなどを載せ、目で見えてわかるよう保育の様子を掲載しています。また、法人で作成した連携園のホームページや「とうきょう福祉ナビゲーション」にも情報を提供しています。法人のホームページで連携園の紹介から検索すると、住所や開所時間、定員、延長保育、また2歳児までの園であり、3歳児になると連携園に繰り上がることを載せて、園の情報を詳細に知らせています。</p> <p>市の子育て情報誌や福祉まつりに参加して、園の情報を知らせています</p> <p>園の情報を、市の入園申請パンフレットや子育て情報誌「子育ての玉手箱」に提供しています。また、市の福祉まつりが秋に開催されており、その際に私立保育園協会として当園のリーフレットを置いているほか、園としても直接参加し、小規模保育施設であることや短時間保育専門の施設であること、家庭的な環境を基に個々の発達に応じた生活力を身につけることなど説明し、保育園の情報を提供しています。</p> <p>園への問い合わせや見学の希望には、個別の状況に応じて対応しています</p> <p>園への問い合わせが来たときには、園を見学してもらえるように、丁寧に対応しています。見学に来た際にはリーフレットを渡し、希望があれば「入園のおしり」を渡しています。見学に来た子どもと一緒に遊んでもらうことを基本に考えています。その中で保護者が職員の関わりや環境等を見て、保育方針がわかり、さらに施設長から、短時間利用専用の施設であることや標準時間の保護者が優先で決定されること等を説明しています。2歳児までの保育園ですが、3歳児から連携園へ入園できることを説明して、継続した保育が行えることを知らせています。</p>		
サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ2の講評

入園が決定した際には、保護者の状況に合わせて時間を取り説明しています
 入園面接の際には、「保育のしおり」をもとに、保育目標や保育時間、休園日、保護者参加行事、給食、非常災害時及び対策、保育料、持ち物等について、一つひとつ丁寧に説明しています。重要事項説明書には、事業者や園の概要、職員体制、入園時に必要な書類、保護者会について、料金、支払方法、嘱託医、保育内容に関する相談などが詳細に書いてあります。内容を説明し、利用契約書に署名・押印をしてもらい、保護者と園で一部ずつ保管しています。

利用開始時には、保護者や子どもの不安やストレスが軽減されるように対応しています
 子どもの担当を決めて、同じ職員が対応にあたる担当制をとっています。一人ひとりの子どもの思いを丁寧にくみ取り、家庭での好きな遊びを聞き、園でも同様の環境ができるように配慮しています。また、子どもの様子を見ながら、保育時間を徐々に延ばしていき、3～5日間かけて慣れるようにしています。子どもの変化を見逃さず、子どもが安心して通うことができるようにしています。食事をする初めての日は、保護者に付き添って食べさせてもらい、職員は食事の様子を見て、保育に活かしています。

3歳児になると連携園に移行できることを知らせ、不安を軽減するよう取り組んでいます
 子どもたちが3歳児になると、法人内の連携認可園に入園することができます。2歳児は連携園との交流を行い、3歳児になったときにスムーズに移行できるように配慮しています。5月頃から、散歩先の公園で遊んだり、手をつないだり、名前を教え合うなど交流しています。年度後半には連携園に行き、健康診断を受けたり、リトミックや自由遊びの時間を一緒に過ごしています。また、連携園の子どもたちが午前中のおやつやおにぎりを食べに来るなど交流を重ね、3歳児になったときに、子どもの不安が少しでも軽減できるように取り組んでいます。

サブカテゴリ3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 11/12

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇●)
---	--	------------------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
---	--	---------------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
---	--	---------------

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3の講評

保育所保育指針の改定に伴い、全体的な計画や各指導計画の見直しが期待されます
 全体的な計画は、保育目標を踏まえ、どのような子どもの育ちがあるのかを捉えて作成しています。さらに0歳児の3つの視点、1・2歳児の5領域を明確にし、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識しながら全体的な計画を作成し、発達の連続性を考慮した年間指導計画、週日案の作成に反映していくことが期待されます。週日案には、目標に達するまでのプロセスや反省・評価を記すことができ、週や日々の反省・評価が次週や次の日の保育に活かされるように記録しています。

子どもの発達の目安を保護者と共有し、子育てにつなぐ仕組みづくりが期待されます
 年間指導計画を4期に分けて作成し、月や週、また日々の反省・評価を活かし、見直しています。さらに、「個別成長記録」として、「一人ひとりの目標・配慮、子どもの育ち(養護を意識して)」及び「保育者の関わりと反省」に項目を分けて作成しています。個別的な計画の内容は、送迎時の会話や連絡ノートなどで伝えるように心がけていますが、今後は、子どもの目標や発達の目安を保護者と共有し、楽しく子育てできるように、子育てにつなぐ仕組みづくりが期待されます。

子どもや保護者に変化があった場合には、昼会議や職員会議により共有しています
 子どもや保護者に変化などがあった場合には、昼会議や月1回の職員会議で伝えています。会議に欠席した職員も含めて、議事録を閲覧したらチェックする欄を設け、必ず目を通すように徹底しています。職員同士の日々の会話からでも十分に伝えられる職員数ではありませんが、職種の異なる職員や、時間差のあるパート職員にも確実に情報共有できるように、さらに伝える内容を整理して、必要な情報を適時に収集するための記録の取り方や書式の改善を進めることが期待されます。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どもの羞恥心に配慮した働きかけを、職員一人ひとりが意識して行っています</p> <p>子どもの成長・発達を確認しながら、一人ひとりに合わせた対応を行っています。夏には庭で水遊びやどろんこ遊びを楽しんでいます。シャワーをするときには、フェンスを立てて周りから見えないように工夫しています。また、衣服の着脱に関しては、上着を脱いだら上着を着ることを知らせながら、自分でやりたい気持ちを大切に、子どもにわからないように手を貸し、裸にならないように配慮しています。排泄の時にも他から目につかず、子どもの遊びと離れた場所で、見えないように配慮をしながら行っています。</p> <p>子ども一人ひとりの気持ちを受け止め、気持ちを尊重した保育を行っています</p> <p>職員は「子どもの最善の利益」を常に考え、保育を行っています。子どもの年齢に配慮して、主張を受け止め、できるだけ子どもが納得して行動できるように、個々の気持ちを大切に、尊重しています。職員は、生活や遊びの場面で、子どもが自分から行動できるように「待つ保育」を心がけています。また、食事の時に、最初の盛り付けは少なめの量にして食べられた満足感を味わえるようにしています。着替えや手洗いの場面でも、まだ遊んでいた気持ちなどを受け止めながら、どうしたいのかを聞き、気持ちを尊重した保育を行っています。</p> <p>虐待防止や育児困難家庭への支援に向け、職員の理解が深まるようにしています</p> <p>虐待防止の外部研修を受講したり、法人の「虐待防止マニュアル」に園独自の内容を加え、職員会議やOJTの中で職員に周知しています。マニュアルには人権擁護も含めており、虐待が疑われた場合の手順も併せて職員に周知しています。職員が不適切な言動を行わないよう、職員同士の気づきや施設長が感じたことを昼会議等で共有して、職員間で検討し、保育に活かしています。区からの虐待事例の通知等も共有しています。家庭等での虐待の情報や疑いがあれば、必要に応じて関係機関と連携して対応する体制を取っています。</p>			
サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(○●)

評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリ6の講評

園独自のマニュアルを作成し、必要なマニュアルを活用して保育を行っています

手引書は、国や都のガイドライン等を参考に、連携園作成のものも合わせて、園独自のマニュアルとして整備しています。保健マニュアル、給食衛生管理マニュアル、事故防止及び事故発生時のマニュアル、防犯マニュアル、虐待防止マニュアル、人権擁護マニュアル、保育園防災の手引き、水遊び・プール遊びマニュアルなどを作成しています。保健マニュアルの中には、健康観察、発育・発達状態の把握、乳児保育に関わる配慮事項などを盛り込み、詳細に作成しています。マニュアルは一定の場所に備えており、必要な時に活用して業務を行っています。

給食衛生管理マニュアルは、子どもの実態に合うよう見直しや変更を行っています

子どもを受け入れるにあたって、給食衛生管理マニュアルのアレルギー対応について、全職員で項目を見直し、確認しています。園で食事を提供するときどのようにするか、アレルギーをもつ子どもへの対応手順を一つひとつ確認しながら、必要に応じてマニュアルの記述を変更しています。月齢や成長、他の子との関係によっても対応を変えてみて、その都度、職員に周知しています。他の様々なマニュアルについてもさらに活用できるように、見やすく整理し、職員間で変更や改善に向けた定期的な話し合いを持つことが期待されます。

保育の計画や基本事項・手順について、見直しの時期を定め取り組むことが期待されます

行事の前後には、保護者に日程や内容の希望、感想を聞くアンケートをとり、行事の企画や運営、振り返りに活かしています。行事の日程は、兄弟姉妹の関係に配慮して、地域の小学校の行事と重ならないようにしています。保育の基本事項や手順は、職員会議で話し合い、見直したところは全職員で確認しています。施設長は、年度末に年度の反省と翌年度の方向性を職員に伝えていきます。今後はさらに、保育の計画や基本事項、手順の見直しを、期や前期、後期など年度途中で全職員で行うことが期待されます。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況 34/34

1 評価項目1

子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点(00000)・非該当1

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input checked="" type="radio"/> 非該当

評価項目1の講評

子ども一人ひとりの発達の過程を把握し、子どもの姿を共有して保育を行っています
 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境は、入園時に聞きとり、新入園児面接表に記録し、子どもの全体的な姿を全職員で把握・共有しています。年間指導計画から月・週指導計画案・日案、そして子ども一人ひとりの「個別成長記録」を作成し、子どもの姿をよく把握した上で保育を行っています。正規職員だけでなく、パート職員も含めて、保育する全職員が個々の子どもの姿を把握できるようにしています。日々の保護者との会話も活かしながら、子どもの変化する姿を捉え、対応しています。

小規模園ならではの特徴を生かした保育で互いを認め合う心が育つように配慮しています
 0~2歳児の子どもたちを10名受け入れており、年齢に合わせた年間計画を作成し、さらに個々の計画・記録として「個別成長記録」を作成し、保育を行っています。一人ひとりの様子により、必要に応じて計画とは別の活動を行うなど柔軟に対応し、子どもたちは大きな家族のような関わりを持って過ごしています。2歳児が作っているものを小さい子どもが壊したりするときは、お互いの気持ちがわかるように、職員が子どもの気持ちを代弁して伝えるようにして、お互いを認め合うことができるように配慮しています。

子ども同士のけんかなどに対して、お互いの気持ちを受け止めて対応しています
 天気の良い日は戸外に出て活動することも多く、子どもたちは自然の中で、様々な体験をしています。部屋の中でも、自分の好きな遊びが十分にできるように、玩具や環境を工夫しています。自分の好きな場所や人との関わりの中で、子どもにとって譲れないことがある場合には、大人は危険の無いように見守り、それぞれの子どもの気持ちを代弁して伝えるようにしています。保護者には、子どもの様子を知らせる中で、職員がどのように対応したか話をして、子どもの成長している姿があることを伝えています。

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(0000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2の講評

登園時には視診を行い保護者に口頭でも確認し、全職員に連絡ノートで引き継いでいます
 毎朝の受け入れの時には、園の保健マニュアルに沿って、前日までの状態や病欠などを考慮しながら、担当職員が視診を行い保護者に口頭でも丁寧に確認しています。視診では、元気があるか、機嫌、熱、皮膚の状態、爪の長さ、顔つき、表情、鼻水などを確認しています。家庭との連絡帳の記載内容もあわせて子どもの状況を見ます。確認した内容は、全職員に連絡ノートを使用して引き継いでいます。子どもの状況は全職員が把握しており、降園時には、担当職員が保護者に連絡帳を渡して、日中の子どもの状況を伝えています。

個々の発達の状態に応じて基本的な生活習慣の大切さを知らせ、自立に向け連携しています

発達の見通しや生活リズムの大切さなどを、入園時に「保育のしおり」に沿って保護者に伝え、個々の子どもの状況によって、家庭と保育園が連携して基本的な生活習慣の自立に向けて取り組んでいます。また、行事の中で発達に関することを伝えることもあります。排泄に関しては、園で出た時間を知らせたり、登園の時に家庭で何時に排泄してきたかを細かく聞き、子どもがオムツからパンツにスムーズに移行できるように、家庭と連携しています。食事や着脱、睡眠に関しても、連絡帳や口頭で丁寧に聞き、家庭と連携して行っています。

休息の長さや時間帯は個々の様子に合わせて、家庭と連携して柔軟に対応しています

休息は家庭での起床時間や子どもの状況により、一人ひとりに合わせた睡眠を保障しています。毎日の受け入れ時に家庭での状況を確認し、いつもの時間に眠れなかったり、早く起きてしまった場合には、午睡時間に配慮しています。その日の様子により、午睡から早く目覚めたり、なかなか寝付けない子どもには、個々に配慮しています。起きた子どもから遊び、また寝付けない時には気持ちよく眠りにつけるように、お話をしたり、子守歌を歌ったりしています。その日の様子は連絡帳や口頭で保護者に伝え、家庭と連携して子どもの生活リズムを考えています。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

年齢により子どもが遊びこめる時間と空間を保障できるよう、遊ぶ環境を工夫しています

自分で好きなもので遊べるように、子どもたちの手の届くところに玩具を置き、年齢に応じてパズルやブロック、ままごと、壁に自由に描けるスペース、手づくりの玩具など、一人ひとりの子どもが楽しめるようなものを用意しています。2歳児が集中してブロックで大きな作品を作る時には、段ボールやマットなどで仕切りをつくり、遊びの保障をしています。昼食の時間が始まって遊びたい子どもには、終わったら来るように声をかけて、十分に満足したら自分で決めてくるようにし、主体性を育てています。

子どもが発する言葉を受け止めて返したり、様々な表現を楽しめるように配慮しています

子どもが発する、言葉にならない気持ちを職員が代弁して返すなど、子どもの気持ちを大切にやりとりしています。寝る前やおやつ前など、日々の保育の中でお話をしたり、歌をうたったり、ふれあい遊びなどを職員や子ども同士で楽しんでいます。また、食事の時には会話を楽しくするように働きかけています。一人に1冊ずつスケッチブックを用意して、絵の具遊びやシール貼り、絵を描くことなど、年齢に合わせた表現遊びを取り入れています。小麦粉粘土を使ったおままごと子どもたちの好きな遊びです。

戸外遊びでは、季節の変化を感じたり、身体を使って遊ぶことを楽しんで行っています

近隣の自然を活かして、四季折々の季節の変化をみながら、日々、戸外遊びを楽しんでいます。散歩コースには山があり、坂道を上ったり下りたり、年齢によりコースを変えたりしながら、身体を十分に使うことで体力もついています。訪問調査の日にも、朝から全員で出かけ、昼食の時間までたっぷり遊んできました。それでも、子どもたちは疲れた様子もなく、元気に帰ってきました。また、園庭に出る時には、季節により水遊びやどろんこ遊びなどをし、身体を使い思い切り遊んでいます。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

子どもたちが楽しめる行事を日々の保育の中で取り入れ、自然な形で行っています

「たくさん遊び、しっかり食べて、安心して眠れる生活をもとに自信をつける」ことを保育目標に掲げています。「自分でやりたい」、「できた」気持ちに寄り添い、できた時には一緒に喜び共感していくことを大切に、日々の保育や行事に取り組んでいます。季節に合わせた装飾作りは、子どもたちがやりたいと思える材料を置いて、自由な時間に作っています。七夕やハロウィン、クリスマス、お正月、節分は季節ごとに、装飾や雰囲気を楽しんでいます。誕生会は、月に1回みんなで誕生児を祝い、歌ったりエプロンシアターを見る機会を作っています。

「夏まつり」「親子で遊ぼう会」などを通して子どもたちは満足感を得ています

「こっこ夏まつり」は連携園での親子行事で、連携園は3歳児になる時の進級園になっています。少ない人数で過ごしている子どもたちが、大きな集団の中で保護者と一緒に過ごすことができ、満足感が味わえる行事です。また、お散歩の会や親子で遊ぼう会では、普段子どもたちが行っている散歩コースを保護者も一緒に歩き、子どもたちの運動面での発達した姿を見て、職員と共感することができています。子どもたちは、保護者に見てもらうことで、満足感や達成感を味わっています。

子どもが行事等に取り組む様子を連絡帳や園だよりで知らせ、保護者の協力を得ています

入園前に渡すリーフレットに、保護者参加の行事を記載して知らせ、行事前には詳しいお知らせのプリントに出欠表をつけて提出してもらいます。毎月発行する園だよりにも、年間の行事予定を載せています。また、行事前の子どもの姿や変わった様子などは連絡帳や口頭で伝えています。行事の後にはアンケートをとり、寄せられた感想や意見を園だよりに載せ、今後の行事に活かしています。お散歩の会のアンケートでは、急な坂道を登る姿や日中過ごしている様子がわかったという感想も寄せられ、運動面の発達を見せる行事の意図を伝えることができています。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

子どもたちが園の中で安心してくつろげる環境になるように配慮しています

当園の利用時間は一日あたり最長8時間であり、家庭的な雰囲気を大切に保育を心がけています。家にいるようなつくりで、年齢の分け方だけでなく、一人ひとりの子どもの状況で柔軟に対応しています。一人で過ごせる場所をパーティションで仕切ったり、マットを敷いてくつろげるスペースを作ったりしています。職員はシフト制で保育に入っていますが、0歳児の場合、夕方は担当職員が入り、安心して過ごせるように配慮しています。月齢等により、夕方に眠くなる子もおり、ゆっくり眠れる場所も作っています。

保育する部屋が変わる中でも、子どもたちが楽しく過ごせるように配慮しています

一日の中で、子どもが楽しく遊べるように工夫しています。夕方、みんなの迎えが来始めた頃にも、遊びに集中できるように、粘土やスタンプ、難しいパズルに挑戦できるようにするなど、玩具や教材の配慮をしています。また、夕方にも園庭に出て好きな遊びを楽しんでいます。職員は、子どもたちのやりたいことができるように、気持ちをくみ取りながら関わっています。子どもたちは、膝の上でゆっくり本を読んでもらったり、話をしたりしながらゆったり楽しく過ごしています。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが楽しく食べることができるように、職員は言葉かけに配慮しています</p> <p>園では、楽しい雰囲気の中で、食べる意欲を育てることを大切にしています。座席は大体決まっていますが、その日の様子によって、大きいクラスの子とも一緒に食べることもあります。自分も大きくなった気持ちになり食が進むこともあります。子どもたちは、担当の職員がそばにいて安心して食事をしています。職員は食事を楽しむことを大切にし、「がんばって」という言葉をかけないように心がけています。子どもたちと一緒に食事をしながら、美味しさを共感したり、食材を知らせたり、楽しい雰囲気の中で食事をしています。</p> <p>子どもが楽しみにできるメニューを工夫したり、体調に応じた食事を提供しています</p> <p>食育計画を作成し、0～2歳児の食育のねらいを立案して、子どもの姿と照らし合わせながら食事を進めています。献立は連携する家庭的保育事業園との2園分を栄養士が作成し、毎月、2園の施設長と調理職員と一緒に、食べ具合や形状等を話し合い、次月の献立に活かしています。ひなまつり食や職員の出身地の食品を園だよりで紹介することもあります。アレルギー食に関しては、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」に沿って、医師により「生活管理指導表」を記入して提出してもらい、園では「食物アレルギー対応票」を基に対応しています。</p> <p>食について興味や関心をもてるような栽培や収穫、調理保育を行っています</p> <p>近隣の畑にキャベツを植えたり、園庭では、ナスやオクラ、とうもろこし、ピーマンを栽培、収穫し、香りをかいだり、手で皮をむいたり、感触を楽しみ五感を使った体験をしています。収穫した食材はみそ汁などに入れてもらい、食事の時間に食べています。子どもたちが調理保育を楽しめるように栄養士が考案した、餃子の皮の上に具材をのせて作るピザは好評でした。今後はさらに、担当職員と栄養士が連携を密にとり、簡単な調理保育や収穫した食材の活かし方などを計画に盛り込むことが期待されます。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

子どもたちと一緒に、手洗いやうがい、危険な場所などを確認しながら行っています

衛生面や安全に関して、年齢や個々の気持ちを大切にしながら、職員と一緒に出来るように配慮しています。手洗いは、一人ひとりの子どものそばで一緒に洗ってみせ、歌に合わせて行っています。戸外遊び後のうごかしは2歳児の秋頃から徐々に取り入れていきます。1歳児が真似をして行っている姿もあります。戸外活動の時には、手をつながなくても危険のない場所と、手をつながないと危ないところを、子どもたちに説明しながら歩いています。身体的発達をうながす活動や身体づくりを支援し、否定的な禁止や制止の言葉かけはしないように努めています。

医療的ケアが必要な子どもに適切に対応できるように、職員間で情報を共有しています

一人ひとりの子どもの健康状態を把握するために、嘱託医による毎月の健康診断と、年1回の歯科検診を行っています。園では毎月1回、身長体重測定を行っています。また職員会議の中で、園での事例をあげながら、病気等への対処方法を学んでいます。一人ひとりの子どもの情報を個別にファイリングし、受診をする基準や職員の取るべき行動など、対応方法を確認しています。対応に迷ったときや、何か起こったときには、連携園の看護師に相談ができ、嘱託医に相談し受診することもあります。健康に関して、保護者への連絡を丁寧に行って対応しています。

保護者と連携をとり、一人ひとりの子どもが健康で過ごせるように配慮しています

子ども一人ひとりの健康状態の把握をするために、家庭と連携を取っています。保健だよりを掲示するとともに、保護者に配布しています。感染症が発症したときには掲示で知らせ、口頭でも伝えていきます。乳幼児突然死症候群(SIDS)に関しては、チェック項目(うつぶせ、嘔吐の有無、顔色の変化など)に沿って、0歳児は5分おき、1・2歳児は10分おきに確認しています。職員間では、保健マニュアルを用いて対応の確認を行っています。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目8の講評

保護者同士が交流できる機会を作り、職員との信頼関係が深まるように取り組んでいます

保護者同士の交流は、連携園との「夏まつり」や「親子で遊ぼう会」、「お散歩会」、「親子遠足」等の機会に行っています。「お散歩会」では、いつもの散歩コースを親子で一緒に歩く保育参加を行い、子どもたちは園で食事をし、昼寝をします。保護者には、保護者同士で外でご飯を食べてきてもらいます。また、夏まつり、親子で遊ぼう会、親子遠足では、職員も含めて語り合う場を設け、お互いに子育ての悩みを打ち明けたり、子育ての楽しみを共有するような話もあり、好評でした。朝夕の送迎時も、保護者との丁寧な関わりを大切に組み込んでいます。

保護者と共通認識がもてるよう、交流会やおたよりで発達や育児に関して知らせています

連絡帳で日々の子どもの姿を知らせ、園だよりでも、「遊びで世界を知る」として遊びは学習であることを図入りで知らせたり、「いじわるなんかないよ」と題して人との関わりについて伝えたり、「表情はメッセージ」として感情の交流、感情を顔に出すことの勧めを載せています。また、どろんこ遊びの話や裸足で過ごすことを大事にしていることなど詳しく伝えていきます。交流会では、いやいや期の子どもにどのように対応していくかなど、具体的な内容も含めて、保護者と共通認識が持てるように知らせています。

保護者の養育力向上のために保育参加を行い、園での姿や職員の対応を知らせています

保護者の養育力向上のために保育参加を行い、園での子どもの姿や職員の子どもへの対応を見る機会を作っています。午前中は保護者が保育者として子どもに関わる形で、保育に参加してもらっています。自分の子どもだけでなく、他の年齢の子どもの姿を見ることで、成長の過程を知ることができます。職員が子どもたちとどのように関わっているのか、子どもへの対応を見ている保護者に伝えるようにしています。子どもがなぜそのような行動をとるのか理解できるよう伝えたり、その時の声のかけ方や、見守ることの大切さを知らせています。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域の園や連携園と交流したり、清掃車に声をかけるなど、近隣の方と挨拶をしています 清掃車が大好きな子どもたちは、戸外に出た時や、清掃車が園の近隣のごみを集めに来た時に、清掃局の人に声をかけたりかけてもらったりしています。また、近隣のお年寄りと話をしたりしています。2歳児は連携園に行く機会をつくり、連携園の2歳児と一緒にリトミックや自由遊びなどを行い、集団の中で様々な経験をしています。周辺の公園へ行くときには、公園に来ている親子と一緒に遊んでいます。そうして出会った地域の親子がその後、園に遊びに来ることもあり、交流の機会を持っています。</p> <p>子どもが職員以外の人と交流できるような機会を作るよう努めています 園では「いつでも遊びに来てください」と地域の方に声をかけており、在園児の友達が親子連れで遊びに来たりしています。園の規模が小さいこともあり、ボランティアを積極的には公募していませんが、地域の小中高生のボランティアを受け入れています。また、連携園の保育者や認証保育所の保育者の実習を受け入れており、子どもたちは様々な人と関わり、触れ合う機会を持っています。連携園との「こっこ夏まつり」も、子どもたちが園外の大人や子どもと交流できる大事な機会になっています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	園だよりは知らせたいことを保護者にわかりやすく、興味深い内容で作成しています	
内容①	毎月、園のおたより「ひよっこわかまつ便り」を作成し保護者に配布しています。4・5月には子どもたちの姿を写真入りで紹介したり、保護者へのお願い、夏の簡単レシピ、行事予定等を載せ、さらに園で行っている「裸足で過ごすこと」の大切さを画像入りで、レイアウトも見やすく作成しています。6月には「どろんこ遊びのお話」、8月には「遊びで世界を知る」「大人が誤解しがちな幼児の行動」等をイラスト入りで載せ、保護者がわかりやすい内容になっています。保護者が楽しく子育てができるような、子育て支援につながる取り組みになっています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目		
タイトル②		
内容②		

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	近隣の山を散歩コースにし、子どもたちは四季折々の自然に触れ、身体を使った遊びを楽しみながら健康な身体をつくっています
	内容	園の保育目標「たくさん遊び よく食べ よく眠る」の内容の中には、のびのびと自然の中で遊びきることも含まれています。近隣にある自然の中で、土や芝生の上を四つ這いで歩き、斜面を上ったり、歩いて斜面を下ったり、身体を使った遊びが楽しんでできるように配慮しています。0～2歳児と一緒に出かけても活動は異なり、年齢に合わせた目標をもって出かけています。訪問調査日には、1時間以上戸外で活動をして、1・2歳児が元気に歩いて帰ってきました。日々の積み重ねで心も体も元気になり、健康な身体を作っています。
2	タイトル	子どもたちが安心して穏やかに楽しく過ごすことができるように、一人ひとりの気持ちに寄り添った「待つ保育」を心がけています
	内容	職員は子どもたちが安心して過ごすことができ、基本的な生活習慣を身につけられるように、子どもの気持ちを尊重し、急がすことなく、一人ひとりの様子を見ながら待っています。「じぶんで」の気持ちを大切にしており、自分の思いが伝わるとやり始める姿もあります。遊びから食事などへの切り替えも、十分に最後まで遊んでから食事に移れるように待っています。法人内の連携園「キッズルームっこ保育園」との2歳児の交流時には、リトミックを行いました。子どもたちが順番を待ち座す姿に、集団での活動にもスムーズに参加できる成長が見られています。
3	タイトル	勤務形態を柔軟に見直すなど、家庭の事情があっても長く働ける、働きやすい職場となるよう尽力しています
	内容	常勤職員、非常勤職員ともにベテランの職員が多く、家庭で子育て、介護などの役割を担っているケースも多いことから、さまざまな事情があっても長く働ける職場となるように尽力しています。残業が少ないことや、正職員の有休消化率がほぼ100%に近いことなど、比較的負担の少ない職場と言えます。また、ストレスチェックを実施して職員の状況把握に努め、事情があれば正職員から非常勤職員に変更するなど、必要に応じて勤務形態を柔軟に見直し、働きやすい職場となるようにしています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	PDCAサイクルを意識して、幅広い課題抽出や具体的な目標設定、達成状況の振り返り等を実施し、組織力を向上させることが期待されます
	内容	園長は方針・目標を掲げて職員に周知し、保育の質の向上を目指して職員を育成しています。地域に開かれた園として、今後の地域貢献事業の実施にも意欲的です。保育における重点課題を設定して取り組み、一定の成果が見られますが、幅広い情報収集、分析を通じて課題を抽出し、より具体的な目標を設定することについては、今後の取り組みが期待されます。達成地点を明確に定め、定期的に進捗を振り返りながら推進していく、PDCAサイクルを意識した取り組みに発展させることで、より職員の理解が深まり、組織力が向上するものと思われる。
2	タイトル	リスクを幅広く洗い出し、優先順位をつけて、より実効性のあるリスクマネジメントにつなげていく取り組みが期待されます
	内容	子どもの安心・安全を第一に考えて保育の環境を設定し、事故対応のフローチャートや各種マニュアルなど、危機管理についての基本的な事柄を定めています。一方で、子どもを取り巻く環境や事業継続の観点から、さまざまなリスクがあることを洗い出すことについては、今後のさらなる意識的な取り組みが望まれます。ヒヤリハット報告の基準を見直して共有するなど、仕組みをさらに整えた上で活用し、職員の意識を高める工夫も期待されます。書類の管理について、書庫の施錠等の物理的セキュリティ向上も今後の取り組み課題としており、実施が望まれます。
3	タイトル	個別成長記録を毎月作成し、子どもの成長・発達に活かしていますが、職員と保護者が子どもの目標を共有する仕組みづくりが期待されます
	内容	全体的な計画は、保育目標を踏まえ、どのような子どもの育ちがあるのかを捉えて作成しています。さらに、0歳児の3つの視点、1・2歳児の5領域を明確にし、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識しながら全体的な計画を作成して、発達の連続性を考慮した年間指導計画、週日案の作成に反映することが期待されます。「個別成長記録」は、目標や子どもの育ち、保育者の関わりと反省を記録して日々の保育に活かしていますが、さらに保護者に子どもの目標や計画を伝え、保護者と子育ての楽しさを共有し、共育でつなぐ仕組みづくりが期待されます。